

平成 28 年度第 1 回岡山県環境審議会水質部会 議事概要

1 日時

平成 28 年 7 月 27 日（水） 14:00～15:00

2 場所

メルパルク岡山 2階 蓬莱（岡山市北区桑田町1-13）

3 出席者

委員 5名 特別委員 2名 計 7名

4 議事要旨

審議事項（1）瀬戸内海の環境の保全に関する岡山県計画の変更について

「瀬戸内海の環境の保全に関する岡山県計画の変更について」を事務局から説明し、審議の結果、原案を適当であると認め、環境審議会に報告することとされた。

（委員）

計画の点検について、5年で中間評価を行って、10年後に必要があれば見直し行う、その際の指標の数値を見て、現状値と比較してどうか、という評価を行うということによいか。

（事務局）

5年後に点検し、概ね10年で必要に応じて見直しを行うこととしている。指標の評価については、その値が大きい方が良いのか悪いのか、と言った評価の方法を含めて検討していく。

（委員）

浮泥というのは環境に良くないのか。

（委員）

岩等に付着する生物の妨げになったり、砂質を覆ってしまうということがある。藻場等のろ過機能が失われ、懸濁態の物質が増えている。懸濁態の物質が多いところでは、透明度が低く、水中では目の前の物が見えないぐらいであり、生物の生息に適しているとは言えない場所がある。

（委員）

瀬戸内海は潮流が早いので、そのような問題は少ないと思ったが。

（委員）

場所によってはこのような状態である。また、河川でもこのような問題が生じている。ダムや堰等の整備が進んだため、鉄砲水等が発生しなくなり、石の上に浮泥が堆積し、珪藻類などの生育を妨げている例がある。治水という面ではよいが、生物の生息環境としては良くない面もある。

瀬戸内海は陸域からの水の終着点であり、流域の人々の生活や産業も含めた広い視点で考える必要がある。

また、河川事務所は、既に治水一辺倒から、生物の生息環境等への配慮も含めた考え方に変わってきている。

(委員)

ノリ養殖の色落ちだが、産業のところでは平成 10 年頃から発生となっているが、播磨灘では平成 15 年頃となっている。これはどういう理由か。

(委員)

播磨灘は外海からの影響が多少あるが、県内全域では影響の少ない海域もあるので、差が生じることもある。事務局の意図はどうか。

(事務局)

水産部局の意見もある。播磨灘のノリ養殖の主な漁場は児島湾沖で、河川から栄養塩が供給されやすい場所であり、県内で比較的色彩被害の発生しにくい場所であった。しかし、状況の悪化に伴い、他の場所と同じように色彩被害が発生するようになったということである。

(委員)

そのような岡山県特有の事情というのが分かりにくいので、記述を付け加えてはどうか。

(事務局)

海域ごとの事情が分かるような記述を付け加えることを検討したい。

(委員)

文化的景観について、本文中には盛り込んでいただいたが、指標はどれになるのか？

(事務局)

すぐに増える数値ではないかもしれないが、指標 20 の景観計画策定団体数や、指標 27 の重要伝統的建造物群保存地区選定件数等が該当する。また、指標は国の基本計画で提示された項目を基本としているので、今後の評価や見直しの際に、適した指標があれば追加や変更を検討したいと考えている。

(委員)

構成等を変更して素案より読み易くなったと思う。また、用語集が追加されたことで、一般の人に理解されやすくなったと思う。

(部会長)

近隣県の計画は、岡山県と大きく異なる部分等はあるか。参考になる指標があれば採用してはどうかと思ったが。

(事務局)

どの府県計画も国の基本計画に基づいているので、大枠は変わらない。その中で、各府県ごとに力を入れている部分があり、例えば兵庫県はノリ養殖の色落ち対策に注力して記述を厚くしていたりしており、このような変化が多少ある。

指標も国の基本計画に基づいているので、あまり大きく異なるということはない。

(委員)

国の基本計画の委員をやっていた関係で発言すると、近隣県の様子について、岡山県計画を兵庫県計画と比べて遜色は無い。だが、具体例に欠けているというところはある。兵庫県は、国際エメックスセンターや、公益社団法人瀬戸内海環境保全協会の事務局をしているので豊富にデータを持っており、記述が充実している。また、里海、干潟造成に注力している。このあたりについては、今後岡山県でも頑張ってもらいたい部分である。

(部会長)

指標の現状値は毎年調査するのか。

(事務局)

指標については、毎年の現状値を収集する予定である。

(委員)

県独自の指標はどれか。

(事務局)

県独自の指標は無いが、基本計画の指標から、解釈の仕方や設定の仕方を変えているところはある。例えば、指標 31 の栄養塩の推移は、現状の値だけでなく、過去からの推移を含めて検討すべきであるので、グラフ形式で掲載している。

(委員)

里海の活動について意見すると、岡山県が下手ということではないが、兵庫県はアピールの仕方が上手い。岡山県も水産部局が中心になって積極的に里海保全活動をしている。先日、日生で開催されたアマモサミットでも話題にあがっていたが、日生の里海活動は、歴史や活動の質、先進的という面でも日本屈指である。岡山県は、純粋に水産資源の増大を目指しており、兵庫県は人同士の関わりや海の利用に関することが多いので、表面に出やすいというのがある。

(委員)

関係者だけで集まり、あまり外に情報が出ていないように思うので、残念な気がする。

(委員)

かつて水産試験場の場長をしていた経験から言うと、内部完結してしまっているところは否めない。だいぶ前の話になるので、改善されてきているとは思いますが、外部へのアピールも今後の課題であると思う。

(委員)

海ごみに関しては、山陽女子高がかなり先進的に活動しており、国際的な場でポスター発表をしたりしているので、アピールしても良いと思う。